



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第16号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

【目次】

- ◎聖書からのメッセージ:健康な人に医者はいらない エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(12)「ユレーイ・ミラーの実験は生命の自然発生を証明しない」
- ◎箴言から学ぼう!:神さまにお任せしていくときに
- ◎詩篇を読む:直ぐな心になるときに…
- ◎キリストを信じた体験談:パスタ用の鍋
- ◎聖書に関する偉人のことば:マルチン・ルター
- ◎ご案内:聖書贈呈、聖書通信講座

<聖書からのメッセージ>

健康な人に医者はいらない

by エレミヤ

〔聖書箇所〕マタイの福音書9:10-13

9:10 イエスが家で食事の席に着いておられるとき、見よ、取税人や罪人が大ぜい来て、イエスやその弟子たちといっしょに食卓に着いていた。
9:11 すると、これを見たパリサイ人たちが、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人といっしょに食事をするのですか。」
9:12 イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。
9:13 『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。』とはどういう意味か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」

今回は、「健康な人に医者はいらない」という題で少し聖書のことばを見ていきたいと思います。

健康な人に医者はいらない、とはまさにその通りです。医者が必要な時は病気の時なのです。私が医者を大いに必要とした時のことを少し書かせてください。私もおかげさまで、現在まで健康を守られてきました。ただ、今まで一度だけ入院したことがあります。まだ、あれは、30代の頃、若い頃でした。家族が誰もいない部屋で、突然私のお腹が痛くなってしまったのです。

なぜ痛いのか？原因も分からず、どうすることも出来ず、仕方無く私は電話のある部屋まで一人で這って行き、何とか119番の電話をしたのです。救急車で運ばれた先の病院で、盲腸である、と診断を下され、手術をし

健康な人に医者はいらない エレミヤ

て、何とか事なきを得たのです。病院のお医者さんの適切な判断と手術で、無事痛みや症状から回復することが出来たのです。自分には原因の分からなかった病や激痛から回復出来、正直お医者さんは頼りになる、と実感したものです。

体を癒すお医者さんも頼りになりますが、私たちの心を癒し、内側を癒されるキリストは、さらに頼りになるのですが、このことを見ていきましょう。

上記テキストに沿って、キリストのことばを少し考えてみましょう。

9:10 イエスが家で食事の席に着いておられるとき、見よ、取税人や罪人が大ぜい来て、イエスやその弟子たちといっしょに食卓に着いていた。

イエスや弟子たちは、取税人や罪人と一緒に食事をしていました。背景を言うなら、この聖書の舞台であるユダヤは宗教的な国でした。それで、当時の宗教的な人々からは取税人は、疎んじられていました。さらに罪人、罪を犯した人々は、宗教的な人々からは忌み嫌われていました。罪人と接触すれば、罪に影響されてしまう、自分の清さが汚れてしまう、と思われていたわけです。しかし、そのような罪人とイエスや弟子たちは食事をしていたわけなのです。

9:11 すると、これを見たパリサイ人たちが、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人といっしょに食事をするのですか。」

このような罪ある人との接触を避けて、清さを保っていた宗教家であるパリサイ人が、疑問に思って尋ねました。「**なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人といっしょに食事をするのですか。**」と。

9:12 イエスはこれを聞いて言われた。「医者を

必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。

キリストのその質問に対する答えは、「**医者を必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。**」とのことばでした。言わんとしていることはこういうことでしょうか？これらの神の前に罪を犯している罪人や取税人は、神の前には丈夫な者でも、健康な者でもないかも知れないが、しかし彼らを癒す医者が必要である、と語ったのです。そして、その医者として、自分は来たのだから病人を離れたり、嫌ったりするわけにはいかないのだ、とそう言われているわけなのです。

9:13 『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。』とはどういう意味か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。』

ここで、さらにはっきりと語られています。「**わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。**」と語られたのです。言わんとしていることはこういうことでしょうか？キリストが来た理由、目的は、神の前に正しい、何の問題も無い、そのような丈夫で健康な人、道徳的にも何の問題も無い人を助けるために来たわけではない、逆に、その心もまた、道徳的にも病で歩けない、ケガで動けない、瀕死だという人々のため来られた、神の前に正しく歩めない、道徳的にも正しくない、場合によっては、世の中の法律さえまともに守れない、そんな病人、罪人を助けに来られた、医者として来られた、そう語られているように思えます。

逆に医者に行くときは、私たちが怪我をして血が出たままの状態で担ぎ込まれたり、痛みで歩けない状態で入院したり、衰弱したまま入院したりするものなのです。

ですから、私たちも、もし、倒れたり、もう人生を歩めなかったり、弱ったりしたなら、そのままの状態、医者であるキリストの元

健康な人に医者はいらない エレミヤ

へ行くのが正しい方法であり、正しくキリストに会う方法なのです。

もう少しまともになったら、道徳的に改善されたら行こうと思うなら、それは少し違うのです。ですから、我々が社会不適合で、もうまともに生活出来ない、という状態なら、人間的にはピンチですが、しかし、医者であるキリストにとっては、じつは人を癒すチャンスとも言えるのです。私たちはそのまま、キリストの元に助けを求めて良いのです。

また、我々が自分の意思の弱さに絶望して、もう歩む気力も無い、というとき、それは、いわば、病がピークに達した状態なので、人間的には大ピンチです。しかし、それは、じつはキリストという稀代の名医、医者にかかる絶好のチャンスかも知れません。キリストご自身が私たちの病を癒すと言われているからです。

または、自分の道德心の無さに、ほとんど困っている、絶望している、というとき、それはたしかに人間的にはピンチなのです。しかし、それは、また、キリストという医者をお願いするチャンスとも言えるかも知れません。キリストご自身が、「**わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。**」と言われているからです。このキリストにより、多くの人が人生を変えられてきました。それこそ、刑務所に入るような罪を犯した人であっても、正しい歩みに入り、変えられてきたのです。キリストに頼る人は癒しを受け、助けを受けるのです。

このキリストにより、多くの人が歩みを変えられてきたからです。

私の例は参考になるかどうか分かりませんが、書いてみます。私もキリストに祈り、助けを受け、癒されたり、強められたりしたことが何度もあります。私の弱さはいく

つもあります。そのひとつは、物事が継続しない、ということです。私には仕事でも学びでも奉仕でも、すぐに挫折したり、諦めてしまったり、弱ってしまったりして、また、途中で気が変わったりして継続しない、という問題がありました。ひとつのことを継続出来ないのです。

でも、前述のように、キリストは健康な人のためにではなく、病人や弱った人を助ける医者として来られた方なので、この方に求めるようにしました。そして、キリストに求め祈っていくとき、徐々に私は強められ、物事を継続出来るようになりました。たとえば、私はキリスト教系のメールマガジンを発行しました。毎日発行するのは私にとっては大変なのですが、キリストが助けてくださいました。結果、計4000号以上、10年以上もの長い間、続けることが出来ました。継続が苦にならない人はともかく、生来飽きっぽく、気が変わりやすく、長い間、ひとつのことを続けられない性格だった私には、こんなに長く続けることはまさに画期的なことです。キリストが私を強め、変えてくださったのです。こんな風にキリストは私たちを癒してくださいます。私たちは自分のありのまま、キリストの元へ行きましょう。



罪人を招くイエス

高ぶりを打ち砕く進化論の誤り(12)ユーレイ・ミラーの実験は生命の自然発生を証明しない

人はどこから誕生したのか？その問題に関して聖書は「神が人を創造した」と述べます。しかし、日本においては、学校で進化論が教えられており、人は猿から進化したと説きます。では、その進化論は正しいのか？それをこのシリーズで見えています。

最初の人間、最初の生き物はどのようにして出来たのでしょうか？聖書は、神が最初の人間を創造し、最初の動物を創造したと語ります。それに反して進化論者は、生命は自然に発生した、実験でそれは確認出来た、と語ります。本当でしょうか？

生命の自然発生に関して、進化論者がなした有名な実験として、「ユーレイ・ミラーの実験」というものがあります。これは今も、進化論の教科書には皆載っているものです。これは生命の自然発生を証明するものなのでしょうか？

この実験は、ガラスのフラスコの中に、水、メタンガス、アンモニアを入れ、その単純な混合ガスに火花放電を加えるものです。その後それを冷却し、そこに出来る生成物を集めるのですが、アミノ酸が生じたことがわずか一週間で確認されました。アミノ酸は生命の基本的構成要素なので、このことから生命の自然発生は可能だったのではないかと、との一縷の望みが進化論者の間で持たれました。しかし、ユーレイ・ミラーの実験で生成されたアミノ酸は、生命を構成するアミノ酸とは異なることが、その後、明らかにされました。

ウィルダー・スミス博士はこう述べています。**「アミノ酸には、光学的に見て左旋性(左巻き)のものと、右旋性(右巻き)のものがある。生命の発生は、アミノ酸が左旋性のときのみ可能である。もし、ほんのわずかでも右旋性タイプの分子が混ざっていると、新陳代謝の出来ない異構造のタンパク質に変わってしまう。」**と。

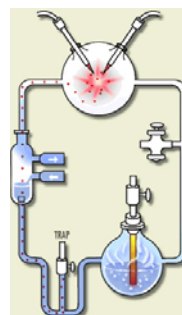
じつは、ユーレイとミラーの実験で生成されたアミノ酸は、この左巻きのものに、右巻きものが混じり込んだアミノ酸だったのです。こうしたアミノ酸は、「ラセミ体」と呼ばれます。ユーレイ・ミラーの実験は、その後何度も追実

験されましたが、生成されるのはいつもラセミ体のアミノ酸でした。ラセミ体のアミノ酸からは、生命は絶対に発生しないのです。それは生命を形成するタンパク質とはなり得ません。また、ユーレイとミラーがフラスコ内に作った混合ガスの状態は、原始大気の状態とは全くかけ離れているとも指摘されています。その他、この実験に関しては、多くの問題点が指摘されており、今ではこの実験は生命の誕生に何の関係も無いとされるようになりました。

進化論の崩壊について分かりやすく解説をしているジェレミー・リフキン著『エントロピーの法則2』には、こう述べられています。**「ミラーとユーレイの実験は、大騒ぎの末、生命の起源については何の科学的価値も無い、というところに落ち着いたのだった。」**と。

結局ユーレイ・ミラーの実験は、生命の自然発生の可能性を示すどころか、むしろ反対に、生命の自然発生はあり得ないという、創造論者の考えを強めるものとなっています。

生命の自然発生は、確率的に見ても不可能です。イギリスの有名な天文学者フレッド・ホイルは、こう述べています。**「進化の確率は、ちょうど屑鉄置き場を襲った竜巻によって、ボーイング747型機が偶然に出来る可能性と同じだ。進化によって生命がこの地上に発生する確率は、まさにこのようで、この地上で生命は絶対に偶然によっては誕生出来ない。」**と。生命は自然発生せず、偶然には生まれません。聖書の言うように、神が人を、生き物を創造したと考えるのが正しいのです。



「ユーレイ・ミラーの実験」は、生命の自然発生を証明しない

箴言から学ぼう！：神さまにお任せしていくときに

〔聖書箇所〕箴言16:3

16:3 あなたのしようとすることを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画(KJV訳:思考)はゆるがない(KJV訳:確定する)。

ここで、私たちが何かしようとすることを主(神さま、イエス・キリスト)にゆだねていくなら、思考が確定しますよ、ということをおっしゃっています。そして今回は、「ゆだねる」ということばを通して、神さま(イエスさま)が私たちにこのようなことを語っているかな？ということについてお話させていただきたいと思います。

当然のことではありますが・・・この世の大半の方はあらゆることに関して、ご自分で決断したり、判断されておられると思います。ところが、聖書におきましては必ずしもそうではなくて・・・「主にゆだねよ。」とありますように、神さまにお任せしていくことをお勧めしております。ちなみに他の箇所でも、そのようなことをおっしゃっている聖句がありますので、よろしければ見てみましょう。

〔聖書箇所〕I ペテロの手紙5:7

5:7 あなたがたの思い煩い(KJV訳:心配、気苦労)を、いっさい神にゆだねなさい(KJV訳:投げなさい、投げなさい)。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

上記聖句はイエスさまの12弟子の一人、ペテロが書いた手紙ですが、「ゆだねなさい。」ということをおっしゃっています。KJV訳では、「ゆだねなさい。」と箇所は、「投げなさい」「投げなさい」とあります。そして神さまに心配事を投じていくときにどうなるのか？と言うと、「神があなたがたのことを心配してくださる。」とありますように、神さまのほうで私たちのことを心配してくださるのです。しかもそれだけで終わるのではなく、あらゆる事柄を良い方向へと進めてくださったり、助けてくださったりするのです。

たとえば・・・当教会のエレミヤ牧師は在職中、就業前にひと言お祈りをしてからお仕事をされていたそうです。なぜ、そうされていたのか？と言うと、ご自身の専門外の分野だったからだそうです。ゆえに、「神さまが助けてくださって、あらゆることがうまくいきますように。」という風に、いつもお祈りされていたそうです。そうすると不思議なことに、事前にトラブルを回避出来たり、時にはこれは難しいのでは？と思うようなこともスムーズに進められ

たりしたそうです。ご自身の心配事を前もって神さまにお祈りしてお任せしていった結果、神さまから必要な助けや力や守り等を受けることが出来たそうです。そして色々なことが最善へと向かったそうです。

そうなんです。「ゆだねなさい。」「投げなさい」と聖書で言われている通りでありまして・・・私たちが、もし、このことを実践していくのなら、それはエレミヤ牧師と同じようなことが現実起きてくるのです。「投げる」と言えば・・・世の中で、「丸投げ」ということばを時々耳にしますよね？時に・・・「洗濯物の丸洗い」ということを聞いたことはありませんか？私たちがあれもキレイにしたい、この汚れも落としたい、というときに、すかさず洗いたいものを洗濯機に全て入れますよね？まさに、投じますよね？そうするなら、シミやドロ等の汚れを全て落とすことが出来ますよね？そんな風に、心配事や不安に思うことをはじめ、あらゆるすべてのことを神さまに「丸投げ」していくことを聖書ではお勧めしております。

でも、反対に、「大丈夫かな？本当にキレイになるのかなあ？不安だからやっぱりやめよう・・・」と、そのまま放置した状態のままでは、いつになっても汚れは落ちませんよね？そのようなことと比較して良いか分かりませんが、私たちが自分自身で全てを抱え込んでしまったり、自分の考えで物事を進めていくという場合に、それは必ずしも良い結論をもたらすとはかぎらないのでは？ということをお祈りの箇所でも語っているように思えます。ですので、繰り返すようで恐縮ではありますが、ありとあらゆる事柄におきまして・・・よろしければ、少しずつでも神さまにゆだねていくようにしていきたいと思えます。ほんのわずかであっても、しかし、信じて行っていくなら、その都度、神さまの助けや力を受けたり、場合によっては神さまのわざ、というものも体験したりすることも出来ますので、もし、そうかも知れない・・・なんて思いましたら、ぜひ、実践してみてください。



神さま(イエスさま)に委ねるなら、助けを受ける

詩篇を読む:直ぐな心になるときに・・・

〔聖書箇所〕詩篇11:5-7

11:5 主は正しい者と悪者を調べる。そのみこころは、暴虐を好む者を憎む。

(KJV訳:主は正しい者を試す。彼〔神、キリスト〕の魂は、悪者と暴虐を好む者を憎む。)

11:6 主は、悪者の上に網を張る。火と硫黄。燃える風が彼らの杯への分け前となろう。

11:7 主は正しく、正義を愛される。直ぐな人は、御顔を仰ぎ見る。

上記聖句において、「正しい」とか「直ぐ」と呼ばれるタイプの人と、「悪者」とか「暴虐を好む者」と言われる人について、対比して述べられています。前半部分は、「悪者」について書かれています。ちなみに「悪者」には良いことが書かれていません。ひとつは、主（神さま、イエスさま）に憎まれる、ということが言われています。「**彼〔神、キリスト〕の魂は、悪者と暴虐を好む者を憎む。**」とある通りです。ふたつ目として、「**網**」が張られる、と言われています。「網」というのは、基本的に何かを捕まえる時に使用するものですね？そういったことから、神さまに捕らえられてしまう、ということ言われているのでしょうか？いずれにしても、あまり良い意味合いではないことは理解出来ますよね？三つ目は、「**火と硫黄**」とあります。「**火**」と聞いて多くの人は、調理の際のガスコンロから出る火とか、薪とかをイメージすると思います。また、「**硫黄**」と聞くと、温泉をイメージするのでしょうか？そういうことも一理あるのかも知れませんが・・・しかし、これらのことばはいずれも「悪者」に関して言われていることから、良いことではないと思います。

「**火**」ということばに関連して、聖書の中に「火の池」ということが書かれています。その一例として、「**いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。**」(ヨハネの黙示録20章15節)ということばがあります。そして「**火の池**」とは、「**いのちの書**」に名前が載っていない人が入ってしまう所だということをお分かりいただけるかと思いますが、著者が思うには恐らく、神さまの前に「**悪者**」とか「**暴虐を好む者**」と判断されてしまった人が、入れられてしまうのでは？と思います。しかもこのこと、「**火の池に投げ込まれる**」とは、現世のことではなく、後の世に起きてくることについて言われていますので、神さまの目の前に決して「**悪者**」とか「**暴虐を好む者**」と思われてしまうことのないように気を付けていきたいと思えます。

次に、「**直ぐな人**」について見てみましょう。「**直ぐな人は、御顔を仰ぎ見る。**」とあります。「**御顔**」とは、「神さまの顔」のことです。少し不思議に思えますよね？そもそも神さまは目には見えないお方なので、どうやって見るのか？と疑問に思われますよね？勿論神さまを肉眼で見ることは出来ないことはたしかです。けれども、第15号でエレミヤ牧師が、人は「肉」と「**霊**」から成り立っている、という風に語られていましたように、もし、私

たちが直ぐな心となるのなら、肉体の目ではなく、「**霊の目**」をもって、神さまの姿を見ることが出来るのです。分かりやすく言うなら、神さまがどのようなお方なのか？どんな御性質をお持ちなのか？たとえばお喜びになることや忌み嫌われることとかお悲しみになられることを理解することが出来るようになっていくのです。「**直ぐな人**」に対しては、神さまはどのように扱ってくださるのです。改めて考えてみると、「**悪者**」とか「**暴虐を好む者**」と言われている人とは、随分違いますよね？

こういう例が良いかどうか分かりませんが・・・某クリスチャンがこのようなことをある時お話をされてきました。「私はノンクリスチャンだった頃、自分の好きなように生きていました。自分の好むこと、やりたいことをひたすら行っていました。でも、今はこうしてクリスチャンになったので・・・しかもそれは神さまのお陰だと思っていますので、もはや自分のためではなく、これからは神さまのために生きていきたいと思えます。残された人生のすべてを神さまに捧げていきたいと思えます。」と。

とても素晴らしいことだなあと、著者は心の中で、「うん、うん。」と頷きながら聞いていたのですが・・・この話を通して申し上げたいことは・・・ひとつは、この方が語られたことは、神さまの思いや御性質そのものである、ということです。イエスさま（神さま）も生涯にわたって御父（天の父なる神さま）にひたすら仕える歩みに徹しておりました。そういった意味合いで、その方は御顔を仰ぎ見ていた、という風なことが一面言えるのでは？と思えます。もうひとつとして、神さまはそれぞれの人の心をご覧になられていて、「**直ぐな人!**」と判断された場合に、ご自身の思いというのをそういう人にお示しになるお方である、ということでもあります。そしてそれもまた、そのまま、「**御顔を仰ぎ見る**」ということにつながっていくのでは？と思えます。

いかがでしょうか？「直ぐな心」のメリットについて多少なりともご理解いただけましたでしょうか？そして「**御顔を仰ぎ見る**」だけではなく、「直ぐな心」を生涯にわたって保ち続けていく延長線上には「天国」が約束されていくと思われまますので・・・もし、わずかでも共感されたり、感銘を受けられたりしましたら、ぜひ、求めてみてください。こういったことも、神さま（イエスさま）にお願い（お祈り）していくときに、神さまは不思議な方法で叶えてくださいますので・・・よろしければ、実践してみてください。



心の直ぐな人を愛される神さま(イエスさま)

キリストを信じた体験談:パスタ用の鍋

昨年(2014年)4月~6月に近所のスーパーでキャンペーンを行っていました。どう内容のものか?と言うと、シールの数に応じて某ブランドのフライパンや鍋を半額で購入出来る、というものでした。ちなみにそのシールは買い上げ金額、千円ごとに一枚もらうことが出来ました。

ところでその頃、我が家ではスパゲティやそば等、麺を茹でるための鍋の取手の部分が、かなり老朽化していて危ない状態でした。なので、これは良いチャンスだ!と、シールを集めて鍋を購入しよう!と、キャンペーンに参加することにしました。1枚、2枚、と集めていく中で・・・ふと気が付くと、キャンペーン期間がそろそろ終わろうかという時が近付いていました。あと、もう1、2枚・・・というところで、なぜか突然お祈りに導かれました。そしてお祈りの中で無意識の内にも・・・「本当に鍋を購入して良いものだろうか?」という思いが内側に湧いてきました。

でも、考えると不思議でした。なぜか?と言うと、今使っている鍋は、もうそろそろ使い物にならないのが明々白々だったからです。もし、今ここで買わなかったらどうなるの?という不安が若干よぎりました。そうこうしているうちに、キャンペーンの期間は過ぎてしまい、そして結局のところ、そのキャンペーンで鍋は購入しませんでした。

それから少し日にちが経ち、そのスーパーの台所用品のコーナーで何気なく鍋を見ていました。キャンペーンのものに比べると若干値段は安めでした。なので、「もしかすると神さまはこういうものを買いなさい、とお勧めしているのかなあ?」と思いました。しかし次の瞬間にある話を思い出しました。それは以前行っていた教会で聞いたことなのですが、ある女性信者が「奉仕に使うこれこれのものが無くて困っています。」ということを牧師に話したことがあるそうですが、その時に、「祈ってよく探してみなさい。それでも無ければ買いなさい。」と牧師はおっしゃっ

たそうです。そこでその人は言われた通り、お祈りして教会の中を探したそうです。そうしたらまさに探していたものが見つかったそうです。その話を思い出しながら、自分は果たして鍋のことで神さま(イエスさま)に祈ったのだろうか?いや、祈っていなかった、ということに気付いて、すぐに神さま(イエスさま)に「パスタ用の良い鍋が見つかりますように。」とひと言お祈りしました。

すると、それから約一ヶ月後、今までほとんど開けたことのない収納を開ける機会があり、なんと!そこにはパスタを茹でるためにピッタリの鍋があったのです。しかも新品でした。その鍋は、大分前に知人からいただいたものだったのですが、台所のシンクに入る余地が無かったため、そこにずっと収納されたままだったのです。もしかすると・・・全知全能の神さま(イエスさま)が、「もうすでにそれは備えてあるよ!」ということをあらゆる方法をもって私に前もって知らせてくださったのでは?と思います。その時から1年以上経ちましたが、その鍋を使うたびに、この出来事を思い出しては神さま(イエスさま)に感謝しています。

“そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、「主の山の上には備えがある。」と言い伝えられている。(創世記22章14節[新改訳聖書])”



神さま(イエスさま)にパスタ用の鍋を用意してもらった。

聖書に関する偉人のことば:矢内原忠雄のことば／お知らせコーナー

<聖書と偉人>

マルチン・ルター:ドイツの神学者、説教者、宗教改革者



聖書は古いものでもなければ、新しいものでもない。聖書は永遠のものである。聖書は、生きている。聖書は私に語りかけてくる。聖書には足があり、私を追いかけてくる。聖書には、手があり、私を掴まえる。

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント！聖書通信講座！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？また、ご希望の方には、聖書通信講座も開設しました。申込者全員へ、贈呈可能です。ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

- (1) 聖書贈呈に申し込みます。
 - (2) 聖書通信講座に申し込みます。
- *ご希望の番号に○をつけてください。(複数可)

郵便番号:
住所:
名前:



見本

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00
場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)
1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、「Yahoo! Japan」で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス
<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家
<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋
<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風
<http://whattopics.at.webry.info/>